

明海大学不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

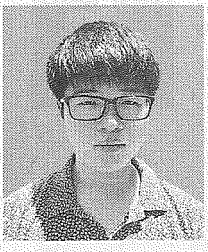
第424回

【学生の目】

4年間の大学の授業をすべて終えて過ごす最後の長期休みも残り1カ月を切った。いよいよ目前に迫った就職への期待と不安で頭がいっぱいである。そんなある

日、就職先の近くに引越すことを検討している友人の家探しに同行することになった。不動産学部の学生であることで頼りにされた次第だが、今後

もこのようなケースが増えることだろう。不動産の知識が友人関係にも役立つことを少し誇らしく思う。家探しの帰りに写真の建物に目を引か



吉田 勝
不動産学部4年

空に浮かぶ家

植物とデザインの力を駆使

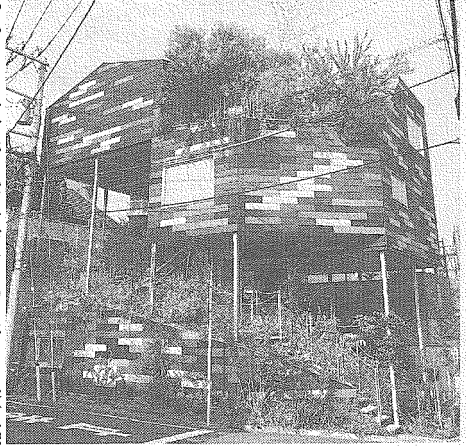
れ、なぜ引かれたのかを考えた。第1に、建物が空中に浮いているように見えることだ。門扉とポストが2つあり、上下階で利用者が異なる住宅用建物のようだが、居住部分自体は接地していない。ピロティ形式は珍しくないが、上部を支える鉄骨がとてもしない。宙に浮いている点ではツリーハウスのようでもある。第2に、外壁の色がカラフルなことだ。といっても光沢は抑え気味

住宅では植栽は建物を配置した残りの部分に限るが、ピロティ形式のため、建物の下にも植栽が可能だ。緩やかに傾斜する地盤を生かしたアプローチに沿って、自然の小道のように植栽し、多様な樹種と高低差が植栽の豊かさを強調している。更に、2階のベランダで植物が大きく茂り、全体が森のように見える。

で、派手な色で目立たせようとしているわけではない。外壁の下部分は茶系で土を、中間は緑系で植物を、上部は空となじむ青系を中心し、白い雲や朝焼けの紅を散りばめているように見える。同一色の外壁には感じない適度なぎやかさがあり、自然との共生を願っていると思わせる物語性がある。

第3に、植栽の豊富さだ。一般の鏡のように反射するガラス製の門扉を設けている。公私を明確に区切る

更に、アプローチの石段の先には、傾斜を持つ角地に立つ特徴的な建物、別荘建築のようにも、独自の宇宙感を示しているようにも見える。意外なエレメントを組み合わせた。つとも一体感があり、様々なイメージをネーションをかき立てる。心細いほどに細い柱に物語の原点がある。



独自の存在感がある外観

【教員のコメント】
不思議な建物造ってほしい。